

提出日：令和 3年 2月 26日
 所属：獣医学部 基礎教育系・生物学
 氏名：佐原 弘益 職位：教授
 役職：獣医学研究科長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
<p><u>学部生教育</u>：基礎を学び、論理的な思考を身につけることで、問題解決の能力を身につける。</p> <p><u>大学院生教育</u>：論理的な思考に基づいた、科学的な視点で、膨大な情報の中から物事の核心にもものを見いだして、問題解決の能力を身につける。</p>				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
生物学	獣医学科	必須	1年	148
生物学	動物応用科学科	必須	1年	145
生物学入門	動物応用科学科	選択	1年	42
生物学入門	獣医学科	自由	1年	8
生態学	獣医学科	選択必須	1年	116
学	動物応用科学科動物	〃	1年	139
専門ゼミ卒業論文	動物応用科学科動物	〃〃	3年	3
文卒業論文	動物応用科学科獣医学	必須	4年	2
基礎生命科学特論 I	科	〃	6年	1
基礎細胞生物学特論 I	動物応用科学専攻	〃〃	前期課程 1年	2
動物生命科学特別演習VI- I 動物生命科学特別研究VI- I 基礎生命科学特論 II	〃	必須	〃	2
	〃	〃	〃	2
基礎細胞生物学特論 II	動物応用科学専攻	〃	前期課程 2年	1
動物生命科学特別演習VI- II 動物生命科学特別研究VI- II	〃	〃	〃	1
	〃	〃	〃	1
	〃	〃	〃	1

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）		
<p>学部教育・大学院教育を通じて、学生にはその基本には論理的な思考をまずは身につけて欲しいと思っている。そして実践の場において与えられた様々な課題に対して、膨大な情報の中で、その核心を得ているような情報を選択する能力を備え、具体案を論理的思考で構築する能力が身につく教育を心がけている。</p>		
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="256 792 1355 1099"> <p><u>アクティブラーニングについての取組</u> <u>学部教育（座学）：授業毎の確認テストの実施による、復習の重要性を認識させる。</u> <u>研究室教育：研究活動そのものがアクティブラーニングと言える。すなわち課題（研究テーマ）に対して、実験を提案して、実践し、得られた結果を検証し、さらなる課題を見つけ出し、実験を提案、実践、検証といったPDCAの繰り返し学習。それを指導し、教育している。</u></p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1099 1355 1301"> <p><u>ICTの教育への活用</u> <u>学内のLMSシステムを利用することにより、実践的にICT教育を実践している。</u></p> </td> </tr> </table>	<p><u>アクティブラーニングについての取組</u> <u>学部教育（座学）：授業毎の確認テストの実施による、復習の重要性を認識させる。</u> <u>研究室教育：研究活動そのものがアクティブラーニングと言える。すなわち課題（研究テーマ）に対して、実験を提案して、実践し、得られた結果を検証し、さらなる課題を見つけ出し、実験を提案、実践、検証といったPDCAの繰り返し学習。それを指導し、教育している。</u></p>	<p><u>ICTの教育への活用</u> <u>学内のLMSシステムを利用することにより、実践的にICT教育を実践している。</u></p>
<p><u>アクティブラーニングについての取組</u> <u>学部教育（座学）：授業毎の確認テストの実施による、復習の重要性を認識させる。</u> <u>研究室教育：研究活動そのものがアクティブラーニングと言える。すなわち課題（研究テーマ）に対して、実験を提案して、実践し、得られた結果を検証し、さらなる課題を見つけ出し、実験を提案、実践、検証といったPDCAの繰り返し学習。それを指導し、教育している。</u></p>		
<p><u>ICTの教育への活用</u> <u>学内のLMSシステムを利用することにより、実践的にICT教育を実践している。</u></p>		
4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）		
<p><u>①教育（授業，実習）の創意工夫 -- (A)</u> <u>②学生の理解度の把握 -- (A)</u> <u>③学生の自学自習を促すための工夫 -- (B)</u> <u>④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) -- (A)</u> <u>⑤双方向授業への工夫 -- (A)</u> <u>※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）</u></p> <p>上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。</p>		

①教育（授業，実習）の創意工夫 --- (A)

遠隔授業に関しては、授業毎に確認テストを行い、その解答の説明を一緒にレポートとして提出させる。提出は学理を用いて義務つけている。

②学生の理解度の把握 --- (A)

①で回答した確認テストレポートで判断している。

③学生の自学自習を促すための工夫--- (B)

①で回答した確認テストレポートにおいて、解答に対するコメントにおいて自学自習の差が個人個人によって大きな差がある。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) --- (A)

Meet を用いたりリモート授業において、必ず質問時間を設けている。そして授業毎に、少なくとも2件以上の質問は受けている。また、メールによる質問にも対応している。

⑤双方向授業への工夫 -- (A)

④と同じ回答とする。

5.学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

Meet の授業について、聞き取りやすくするためにゆっくりと話すように心がけた。

② ①の結果はどうでしたか。

改善されたと思う。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

同じ対応でいきたい。

6.学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

授業毎の確認テストレポート

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価 授業評価はほぼ平均であった。

7.指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

FD については、ほぼ参加している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

文章の表現力がかなり落ちている。たとえば、目の前で起きている現象について、まずは口語表現できない。文章となるとさらにひどい。この傾向は動物応用科学科に強いので、文章の表現力を鍛えていきたいと思う。

もう一点は Internet における膨大な情報量に対して、どのように向き合っているのか？不安を感じる。マスコミなど責任ある情報源と SNS で流れている情報との価値をどの程度考えているのか？それらを総合した知恵を習得できるようにしていきたい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ